

**製品名: SERPINA1 (2F7) ウサギモノクローナル抗体****カタログ番号: AMRe17765**

研究使用のみ

**概要**

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IP
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	ウサギ IgG（リン酸緩衝生理食塩水、pH 7.4、150mM NaCl、0.02%新型保存料 N、50%グリセロール含有）。短期保存は+4°C、長期保存は-20°Cで保存してください。凍結融解サイクルは避けてください。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000,IP 1:10-1:100
分子量	47kDa

**抗原情報**

遺伝子名	SERPINA1
別名	Serpin A1; Short peptide from AAT; SPAAT; AAT;
遺伝子 ID	5265.0
SwissProt ID	P01009
免疫原	ヒト $\alpha$ 1 アンチトリプシンの合成ペプチド

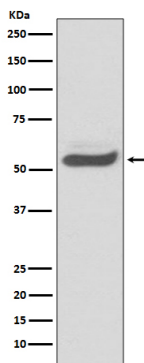
**背景**

SERPINA1は分泌型のセリンプロテアーゼ阻害剤であり、エラスターゼ、プラスミン、コラーゲナーゼ、トロンビン、白血球プロテアーゼ、トリプシン、キモトリプシン、プラスミノゲン活性化因子などを標的とします。セリンプロテアーゼ阻害剤。主な標的はエラスターゼですが、プラスミンとトロンビンにも中程度の親和性があります。セリンプロテアーゼ阻害剤。主な標的はエラスターゼですが、プラスミンとトロンビンにも中程度の親和性があります。トリプシン、キモトリプシン、プラスミノゲン活性化因子を不可逆的に阻害します。異常型は血小板におけるインスリン誘導性 NO 合成を阻害し、凝固時間を短縮し、インスリンとプラスミンに対するタンパク質分解活性を有します。

## 研究分野

細胞生物学

## 画像データ



ヒト胎児腎臓溶解物における SERPINA1 発現のウェスタンブロット分析。